



○ 高齢者のゴミ出しの支援について
○ 「ふれあいの里・かつやまっ子」すくすく育成奨励金
の見直しについて

その他の質問

・介護離職を防ぐ「産業ケアマネジャー」の活用について ・「後期高齢者医療制度」の保険料引き上げについて ・令和6年3月16日の北陸新幹線敦賀開業にむけて

下道恵子 議員



市政会

「地域いきいきボランティアポイント事業」についてその登録数やその仕事の中での「ゴミ出し」事業の状況を伺う。

また笛吹市では、市がゴミ出しチケットを発行して自宅の玄関前にゴミを出しておくというサービス支援をしているがこの支援について市のお考えを伺う。

市が実施している地域いきいきボランティアポイント事業に、令和4年度は73名のボランティアの登録があり、そのうち、9人の方がゴミ出しボランティアとして活動されている。

今後ますます高齢世帯が増加していく中で、ゴミ出しの要望は増えるものと考えられるので、ほかの自治体で実施している「ゴミ出し補助」について研究していく。

また引き続き、地域いきいきボランティアポイント事業について周知を図り、ボランティア登録者を増やすとともに、ゴミ出しの手助けが必要な方への支援に努めていきたい。

すくすく育成奨励金は勝山市民で保護者と生計を一にする第3子以降の乳幼児を対象に、出生月の翌月末に一律20万円を一括交付するもの。

勝山市は子育て支援日本一を目指し、この奨励金、保育料の軽減、児童センターの無料化、不妊治療の自己負担の全額助成等、支援策の充実を図ってきた。

本年1月から、妊娠時に5万円、出生時に5万円を交付する経済的支援に併せ、面談・相談等の伴走型の支援も開始している。

現在、全ての児童を対象とした新たな子育て支援に係る給付型支援制度の創設に向けて研究を進めている。第3子以降を対象にしているこの奨励金については、全ての児童を対象とした、新たな給付型支援制度に一本化していきたいと考えている。

現在、全ての児童を対象とした新たな子育て支援に係る給付型支援制度の創設に向けて研究を進めている。第3子以降を対象にしているこの奨励金については、全ての児童を対象とした、新たな給付型支援制度に一本化していきたいと考えている。

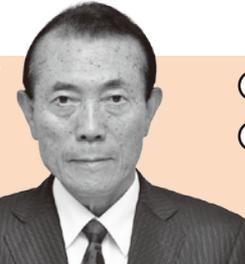


○ 街中に賑わいを取り戻す
○ 左義長まつりについて

その他の質問

・安全安心なまちづくりについて ・少子化対策について
・地場産業の振興について

丸山忠男 議員



市政会

はたや記念館ゆめおれ、花月楼、道の駅は、街中誘客に必要だが、責務を果たしているか検証は難しい。担当課として本町商店街を含めて街中に賑わいを取り戻すためにどのような考えを持っておられるのか見解を伺う。

人口減少で、ウィークデイトに中心市街地を訪れる市民は減少している一方、街中を含め市内の飲食店は恐竜博物館を訪れる観光客でにぎわっており、街中誘客が全くできていないわけではない。冬場の落ち込み、ランチタイム等に集中する課題は残っており、課題の洗い出しや、商業施設出店促進事業補助金等による支援を行っていききたい。

また、事業者の実情に合わせた新たな支援策を研究し、民間事業者の取組と相乗効果で街中の賑わいにつなげたい。

コロナ禍で左義長もなかなか完全にできなかったが、先般の神明神社のお祭りなど大勢のお客様があった。そういう意味で改めて街中の機能について議論をしていく時期が来ていると思っている。

勝山市にとって左義長まつりは伝統文化の面からも観

光面からもその存在価値は大きなものがある。一方、左義長まつりを開催するには、ドンド焼きのワラの確保から、短冊吊りやご神体作り、太鼓や三味線、笛の奏者、川柳や短歌、作り物等といった具合に多くの準備が必要。現在櫓を守る12区の半数の区長が世帯数の減少を理由に、まつりの存続が難しくなっていると述べている。行政と実行委員会が中心になり、小学校、教育委員会、櫓を持たない地区も一緒に考えて考えなければならぬ時期に来たと思われ

勝山左義長まつり実行委員会では、左義長地区以外で左義長ばやし講習会を開いたり、担い手不足で応援団体を受け入れた地区に奨励金を交付する制度を設け、運営やおはやしに継続して参加できるように取り組んだりしている。

左義長ばやし保存会や実行委員会のお客様があった。そういう意味で改めて街中の機能について議論をしていく時期が来ていると思っている。

勝山市にとって左義長まつりは伝統文化の面からも観

勝山市にとって左義長まつりは伝統文化の面からも観